

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cancer 118;2602-2608, 2006	Inhibition of bone-derived insulin-like growth factors by a ligand-specific antibody suppresses the growth of human multiple myeloma in the human adult bone explanted in NOD/SCID mouse.	荒木和浩	臨床腫瘍科
Clin Cancer Res 12;3928-3934, 2006	Orotate phosphoribosyltransferase gene polymorphism predicts toxicity in patients treated with bolus 5-fluorouracil regimen.	市川 度	臨床腫瘍科
Cancer Sci 97;1255-1259, 2006	Pharmacogenetic impact of polymorphisms in the coding region of the UGT1A1 gene on SN-38 glucuronidation in Japanese patients with cancer.	荒木和浩	臨床腫瘍科
Br J Cancer 94;1130-1135, 2006	Phase I/II study of S-1 combined with irinotecan for metastatic advanced gastric cancer.	市川 度	臨床腫瘍科
Gastric Cancer 9;145-155, 2006	Prediction of clinical outcome of fluoropyrimidine-based chemotherapy for gastric cancer patients, in terms of the 5-fluorouracil metabolic pathway.	市川 度	臨床腫瘍科
Int J Cancer 119;1927-1933, 2006	Simple combinations of 5-FU pathway genes predict the outcome of metastatic gastric cancer patients treated by S-1.	市川 度	臨床腫瘍科
医療薬学 32;329-399, 2006	各種茶飲料が薬物代謝酵素に及ぼす影響 —ヒトCYP3A活性阻害作用の検討—	藤田 健一	臨床腫瘍科
Jpn J Clin Oncol 36;295-300, 2006	Phase I study of single-dose oxaliplatin in Japanese patients with malignant tumors.	長島 文夫	臨床腫瘍科
日本救急医学会関東 地方会雑誌 27;152-153, 2006	長時間搬送を要した救急症例の検討	龍神 秀穂	救急部
脳卒中 28;291-296, 2006	心原性脳塞栓症の機能的回復に対する エダラボン早期投与の効果	古屋 大典	救急部
Hepatogastroenter- ology 53;381-384, 2006	Aggressive endoscopic hemostasis for severe gastrointestinal bleeding in critically ill patients to decrease mortality.	根本 学	救急部
日救急医会関東誌 27;78-79, 2006	外傷初期対応を検証すべきと思われた多発外 傷症例の検討	齋藤 憲人	救急部

計 12

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔診断学会誌 20;89-93, 2007	歯根嚢胞に対する摘出開放法の術後成績についての検討	嶋村 由美子	歯科・ 口腔外科
障害者歯科 28;20-27, 2007	重症心身障害者施設入所者の歯科疾患調査	小林 明 男	歯科・ 口腔外科
Cranio 24;130-136, 2006	Response of Temporomandibular Joint Intermittent closed lock to different treatment modalities: a multicenter survey.	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
日本口腔顎顔面学会誌 5;18-22, 2006	ポリ-L-乳酸 (PLLA) 製吸収性骨接合材を関節突起骨折に使用した2例	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
J Med Dent Sci 53;103-109, 2006	Teeth contacting habit as a contributing factor to chronic pain in patients with temporomandibular disorders.	依田 哲 也	歯科・ 口腔外科
日本口腔診断学会 雑誌 20;89-93, 2007	歯根嚢胞に対する摘出開放法の術後成績についての検討	坂田 康 彰	歯科・ 口腔外科
Adv Perit Dial 22;141-146, 2006	Continuous ambulatory peritoneal dialysis is effective for patients with severe congestive heart failure.	中元 秀 友	総合診療内科
Adv Perit Dial 22;11-17, 2006	Early estimation of high peritoneal permeability can predict poor prognosis for technique survival in patients on peritoneal dialysis.	中元 秀 友	総合診療内科
Hemodial Int 10;10-15, 2006	Hypoalbuminemia is an important risk factor of hypotension during hemodialysis.	中元 秀 友	総合診療内科
腹膜透析2006 61;287-289, 2006	CAPD遠隔支援システムによる家庭血圧の支援—家庭血圧の長期モニタリングと季節変動—	中元 秀 友	総合診療内科
透析会誌 40;1-30, 2007	わが国の慢性透析療法の現況 (2005年12月31日現在)	中元 秀 友	総合診療内科
腹膜透析2006 61;47-51, 2006	高齢者PDの実態調査	中元 秀 友	総合診療内科
透析会誌 40;161-167, 2007	高齢者腹膜透析患者の予後と影響因子に関する多施設共同前向き研究—高齢者腹膜透析研究会 (ゼニーレPD研究会) 中間報告—	中元 秀 友	総合診療内科

計 13

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腹膜透析2006 61;228-230, 2006	当院CAPD患者に対するHD併用療法の検討	中元秀友	総合診療内科
日腎会誌 48;658-663, 2006	末期慢性腎不全に対する腎代替療法の情報提供に関するアンケート調査	中元秀友	総合診療内科
Perit Dial Int 26;136-143, 2006	Is technique survival on peritoneal dialysis better in Japan?	中元秀友	総合診療内科
Perit Dial Int 26;150-154, 2006	Combination therapy with peritoneal dialysis and hemodialysis.	中元秀友	総合診療内科
Adv Perit Dial 22;141-146, 2006	Continuous ambulatory peritoneal dialysis (CAPD) is effective for patients with severe congestive heart failure.	中元秀友	総合診療内科
Chemotherapy 53;59-69, 2007	Effect of rapamycin on hepatocyte function and proliferation induced by growth factors.	森吉美穂	臨床検査医学
Am J Surg Pathol 31;403-409, 2007	Buried dysplasia and early adenocarcinoma arising in Barrett esophagus after porfimer-photodynamic therapy.	伴 慎一	病理学
Am J Surg Pathol 30;1561-1569, 2006	Intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) of the pancreas: Its histopathological difference between twomajor types.	伴 慎一	病理学
Arch Dermatol 143;53-59, 2007	Lymphoid keratosis. An epidermotropic type of cutaneous lymphoid hyperplasia. A clinicopathological, immunohistochemical and molecular biological study of six cases.	新井栄一	病理学
Am J Surg Pathol 30;650-656, 2006	Post-gastric endoscopic mucosal resection surveillance biopsies: evaluation of mucosal changes and recognition of potential mimics of residual adenocarcinoma.	伴 慎一	病理学
Hum Pathol 37;1123-1129, 2006	The value of MDM2 and CDK4 amplification levels using real-time polymerase chain reaction for the differential diagnosis of liposarcoma and their histologic mimickers.	島田志保	病理学

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cutan Pathol 33;492-497, 2006	Usefulness of D2-40 immunohistochemistry for differentiation between Kaposiform hemangioendothelioma and tufted angioma.	新井栄一	病理学
Am J Hematol 81;875-879, 2006	Pharmacokinetics of alemtuzumab after haploidentical HLA-mismatched hematopoietic stem cell transplantation using in vivo alemtuzumab with or without CD52-positive malignancies.	正田絵里子	輸血・細胞移植部
J Antimicrob Chemother 57;1004-1007, 2006	Pharmacokinetics of ganciclovir in haematopoietic stem cell transplantation recipients with or without renal impairment.	正田絵里子	輸血・細胞移植部
Transfusion 47;326-334, 2007	A possible role for the production of multiple HLA antibodies in fatal platelet transfusion refractoriness after peripheral blood progenitor cell transplantation from the mother in a patient with relapsed leukemia.	池淵研二	輸血・細胞移植部
Artif Cells Blood Substit Immobil Biotechnol 34;1-10, 2006	Interaction of hemoglobin vesicles, a cellular-type artificial oxygen carrier, with human plasma: effects on coagulation, kallikrein-kinin, and complement systems.	池淵研二	輸血・細胞移植部

計 5

合計 264

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 横手 祐二		
管理担当者氏名	医務部長 薬剤部長 利用者苦情相談室長	奥富 篁幸 江草 利昭 斉藤 喜博	総務部長 茂木 明 医療安全対策室長 片山 茂裕

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん、手術記録、看護記録、 検査所見記録、エックス線写真、 紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約		診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	/
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	確規保則の第9条の23及び第11条各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者苦情相談室	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 江草 利昭
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	51.8%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数	16,961人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,474人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	4,964人	
	D：初診患者の数	54,799人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1)名・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1)名・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (9) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2. 事故発生時の対応状況についての確認 3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4. 医療安全対策の企画、立案、実施、評価、記録 5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6. 医療安全に関連する委員会の議事録、資料の作成ならびに保存 7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。 2. 診療基本マニュアル第9版：平成18年4月1日一刷（平成10年5月6日，初版一刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、机上版のほかマニュアルの要点をまとめたポケット版がある。机上版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は、「診療の基本姿勢」「正しい保険診療」「医療安全の基本」「医療安全対策；総論」「医療安全対策：各論」「問題発生時等への対応」の六章から構成されている。内容は、定期開催（月2回）される診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。 3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準、手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっている。マニュアル集の主な収録内容は次の通りである。診療基本マニュアル机上版、消毒薬使用指針、麻薬管理マニュアル、向精神薬管理マニュアル、褥瘡対策マニュアル、感染性廃棄物取扱手順書、医療ガス保守点検指針、指定施設等不在者投票処理要領、輸血の手順、 4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル - 全5編 - （情報システム室）、放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部）、薬剤業務手順書（薬剤部）、製剤室業務マニュアル（薬剤部）、看護基準・手順（看護部）、診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会）、災害対策マニュアル（施設部）、血液浄化マニュアル（血液浄化部）、医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部）、学校法人埼玉医科大学規程集 	

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																																																
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：大学病院における医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。本委員会は病院長を委員長とし、規則により設置された下部専門小委員会において「ヒヤリ・ハット事例」, 「アクシデント事例」の検討し、再発防止策等の決定を担っている。本委員会で検討された事項は、大学病院診療科科長会議において報告、審議される。</p>																																																	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12 回																																																
<p>研修の主な内容：</p> <p>表の通り</p> <table border="1" data-bbox="204 705 1401 1176"> <thead> <tr> <th>研修名称</th> <th>開催期日</th> <th>研修の目的・主な内容</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マニュアル講習会</td> <td>5/10</td> <td>医療安全の基本的な考え方</td> <td>2,543</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>5/30</td> <td>感染制御部の活動</td> <td>146</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>6/12, 8/22</td> <td>事例から学ぶ医療事故防止</td> <td>321</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>6/27</td> <td>感染予防と栄養サポートチーム</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>7/25</td> <td>周術期における抗菌薬適正使用</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>8/22, 10/25</td> <td>患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止</td> <td>997</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>10/25, 12/7</td> <td>危険予知</td> <td>372</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>12/7, 2/16</td> <td>尿道カテーテルの安全管理</td> <td>443</td> </tr> <tr> <td>事例学習会</td> <td>2/16</td> <td>転倒・転落防止</td> <td>325</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>2/22</td> <td>医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント</td> <td>2,257</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>3/6</td> <td>具体的事例からみるトラブル対応</td> <td>408</td> </tr> </tbody> </table>		研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数	マニュアル講習会	5/10	医療安全の基本的な考え方	2,543	教育講演	5/30	感染制御部の活動	146	事例学習会	6/12, 8/22	事例から学ぶ医療事故防止	321	教育講演	6/27	感染予防と栄養サポートチーム	173	教育講演	7/25	周術期における抗菌薬適正使用	104	事例学習会	8/22, 10/25	患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止	997	事例学習会	10/25, 12/7	危険予知	372	事例学習会	12/7, 2/16	尿道カテーテルの安全管理	443	事例学習会	2/16	転倒・転落防止	325	教育講演	2/22	医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント	2,257	教育講演	3/6	具体的事例からみるトラブル対応	408
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数																																														
マニュアル講習会	5/10	医療安全の基本的な考え方	2,543																																														
教育講演	5/30	感染制御部の活動	146																																														
事例学習会	6/12, 8/22	事例から学ぶ医療事故防止	321																																														
教育講演	6/27	感染予防と栄養サポートチーム	173																																														
教育講演	7/25	周術期における抗菌薬適正使用	104																																														
事例学習会	8/22, 10/25	患者誤認防止, 輸血エラー防止, 誤薬防止	997																																														
事例学習会	10/25, 12/7	危険予知	372																																														
事例学習会	12/7, 2/16	尿道カテーテルの安全管理	443																																														
事例学習会	2/16	転倒・転落防止	325																																														
教育講演	2/22	医療安全と訴訟対策, インフォームドコンセント	2,257																																														
教育講演	3/6	具体的事例からみるトラブル対応	408																																														
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	①・無																																																
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (①・無)</p> <p>改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデント事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療安全対策小委員会委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を前記小委員会（月2回開催）において検討する。検討された内容は、科長会議，看護師長会議，医療安全対策実務者に伝達され、各部署へフィードバックならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策室部内に設置された医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>インシデント事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>																																																	